

■第 29 回 START プログラム (アメリカ)

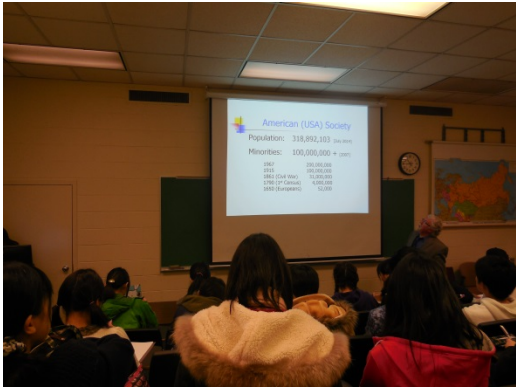
2016 年 2 月 20 日から 3 月 6 日までの約 2 週間、第 29 回 START プログラム (※) に学部 1 年生 30 人が参加し、田北冬子特任講師 (外国語教育研究センター) ら 3 人の引率教職員とともに、アメリカのバージニア州にあるジェームスマディソン大学 (通称 JMU) に留学しました。

START プログラムに参加した学生たちは、2 週間の滞在中、RA (Resident Advisor) の学生とキャンパス内にある学生寮で一緒に過ごし交流を深めました。平日は現地教員による講義 (アメリカの地理や歴史、文化等) を受けたり、RA の学生と一緒に通常講義に参加したりしました。現地の学生は講義中、積極的に自分の意見を発言し、先生と対話形式で講義を進めており、今回 START プログラムに参加した学生たちもその様子を見て、現地の講義スタイルに馴染もうとする姿勢がひしひしと伝わってきました。また、思うように自分の意見を英語で伝えられず四苦八苦する中で、自分の知っている単語をつなげてでも自分の意見を伝えようとする姿勢を多くの学生がとっており、自分の意見を声に出して発言するという大切さを実感することができました。また、アメリカ大統領選挙の時期に重なったということもあり、様々な講義中に選挙に関して議論することもありました。空き時間にはキャンパス内にある UREC (University Recreation Center) と呼ばれるスポーツジムに通う学生もいました。

また、学生たちは、事前に決めたテーマについて、2 週間の JMU での大学生活を送る中で RA の学生にアンケートをとるなどして資料集めをし、大学での活動の最終日に、日本とアメリカの違いについて英語でプレゼンテーションを行いました。

大学以外にも、消防署訪問やシェナンドー洞窟、初代大統領ジョージ・ワシントンの家であるマウントバーノン見学、地域の子どもたちとの交流、首都であるワシントン D.C. 観光など貴重な体験ができました。

帰国後の事後研修では、学生たちが 3 分間という限られた時間内でスピーチすることにより、新しい出会いや貴重な経験を得られたことへの感謝とともに、この 2 週間の留学で新たに学んだこと、実感したことなどを共有しました。多くの学生たちから、この START プログラムでの経験を糧に、様々な語学研修や留学、ボランティア等に参加していきたいという声が聞かれました。



授業風景



シェナンドー洞窟の見学



日本の遊びを教えました



ホワイトハウス前にて